

## 春の雪

つくし

春の雪旅に見るうれしさにはやも涙の浮ぶなりけり  
春の雪柳の枝にたわくくと降るがうれしき旅の宵かな  
春のゆき音なくふれり猿澤の池にひたきて鐘がなるかな  
戸をくれば鹿幾匹もむれてゐぬ南都の都はものみながよき  
南圓堂ふるき丹塗の高欄に春の雪こそふりかゝりぬれ  
朝あけのもやの中より大佛の鐘が大きくなり出てにけり  
鹿二匹のつきあひをしてあるに我にもあらで掛聲をする  
三笠山ふもとに居たる鹿二匹ミュー〜となきし聲を忘れず  
杉の間に河は光れり新らしきよろこびをして山城に入る  
ゆけと行けど白き田舎の道つきすはるかに比叡の高くすめるも  
吹くとなく風のきくれははしかすかに涙くまれぬ旅は悲しや  
ころよく疲れて浸る春の夜の湯槽の中の物思ひなさ

## 英國よりの初たより

白菊

英國と云ふ所に着くのは何時の事やらと、丁度月の世界へでも旅立つ様な、遠い〜  
気分を邦を出しましたが、日數積もれば争はれぬもの、萬里の波濤残りなくかけり盡  
くして、今日(大正二年一月十五日)船は、こゝ、英國ローヤルアルバートドックに錨  
をおろしました。「今度は屹度定期よりも早く着くでせう、何しろ船長は半歳ぶり  
うちへ歸るんですから……全速力を出してゐるんですよ」とマルセーユに着く前にポ  
イが笑ひ〜申しましたつけが、ほんとに、一日、早く着きました。「船が着いた  
ら何分宜しく」と豫ねて、會社本店の何某様より、倫敦支店のさる方様へ、折り入つ  
ての頼みの手紙を差し上げた事なれば、早く着かふが、遅く着かふが、ちつとも案す  
るには及ばぬ事、着きさへすれば、萬事は御厄介をいたゞき得る事と安心して、ビス  
ケーの浪に向きました。つねでさへ有名な難所のビスケー、況してや二十日許り前、  
クリスマス頃の頃、大しきで、いくつかの船は沈められ、燈臺さへも大破損を蒙つたあ  
どの此航海、如何あるべきかと、マルセーユ立つ時、一同非常な心配を致しました。